

- 四国中央農業指導班は、「やまじ風」の対応作物として明治後期に導入された「やまのいも」の生産振興に取り組んできたが、**販売単価の低迷や高齢化等により栽培面積がH2年当時の79haから11haまで減少**した。
- このため、指導班では「やまじ王産地強化事業」(H30～R2)を創設。**生産者、関係機関等で組織した生産振興協議会を設立し、省力生産技術等の確立とブランド化による販路の拡大**など、産地再興に取り組んだ。
- その結果、**マルチ栽培により労働時間が約30%減少**し、**四国中央市産“やまじ王”(県育成やまのいも品種)を“やまじ丸”として商標登録・PR**。8件の新たな取引開始など、産地再興に向けた生産・販売活動を展開。

### 具体的な成果

#### 1 やまじ王産地化対策検討会

- 栽培実証やPR販売計画、実績、課題、対策等を関係者で情報共有した。
- **新規栽培者の確保**  
**JA広報誌等で募集**。個別指導で育成。  
・新規栽培者 0人 → 9人/3年間
- 栽培面積は11haを維持。

#### 2 省力生産技術等の確立

- マルチ栽培マニュアル化  
・マルチ栽培に適した新肥料や施肥量を実証。適正施肥量及び**労働時間(約30%減)**を確認し、**マニュアルを作成**。
- 贈答用中玉芋生産技術の構築  
・**栽植密度を慣行の1.5倍**にすることで**贈答用に適した400g/個前後の芋生産**が可能。0トン → 2.6トン(R2年)生産販売



マルチ栽培現地研修会

#### 3 ブランド化の推進

- 認知度の向上  
・**学校給食**で児童生徒に提供。**“やまじ丸”の認知度が20%に向上**。
- マスコミへの情報発信  
・**知事試食会等**を開催し、**マスコミを通じ情報発信**。
- 新たな販路の確保  
・県内外小売業者やネット販売業者など8件の新たな取引が開始。



学校給食でのPR



知事試食会の様子

### 普及指導員の活動

#### 平成30年度～令和元年度

- **生産者、JA、地元取扱業者、市及び県等で構成する「やまじ王生産振興協議会」**を設立し、情報共有と振興方針を決定。
- 省力技術として、マルチ栽培及び中玉芋生産技術を実証し、データを収集した。
- JAの**“やまじ丸”商標登録や「愛」あるブランド認定申請を提案**し、支援した。

#### 令和2年度

- マルチ栽培マニュアルを作成した。また、中玉芋生産に適した栽培技術を確立し、生産部会等を通じて情報を提供した。
- **学校給食栄養士と連携し、市内学校給食のメニュー化と材料提供**を実現した。
- 県関係機関と連携し、新たな販路の開拓や**知事試食会等マスコミを活用**し、“やまじ丸”ブランド情報を発信しPRした。

### 普及指導員だからできたこと

- ・**普及のコーディネート力**を発揮し、JAだけでなく、地元取扱業者、加工業者等幅広い立場の関係者で構成される協議会を設立し、意識の統一、情報共有及び**振興方針の合意形成**に導くことができた。
- ・**普及の機動力やネットワーク**を生かし、県関係機関や栄養士等との連携による**学校給食でのメニュー化や新たな販路の開拓**など、幅広く事業展開ができた。

愛媛県

## 「やまのいもの省力高品質多収栽培技術の普及とブランド化」

活動期間：平成30年度～令和4年度

### 1. 取組の背景

四国中央市特産のやまのいものは、日本三大局地風「やまじ風」対応作物として明治後期に導入され、最盛期の平成2年には79haまで拡大した。近年は生産者の高齢化や単位面積当たりの労働時間が長く労働負荷が高いこと、加工用中心の販売のため単価低迷による生産意欲の低下等により、平成30年現在では11haまで減少しており、産地の再興が求められていた。

そこで、四国中央農業指導班では、「やまじ王産地強化事業」（平成30年度～令和2年度）を創設し、生産者、関係機関等で組織した生産振興協議会を設立し、やまのいもの省力生産技術を確立するとともに、ブランド化や販路拡大、贈答用としての販売強化等、関係者が一体となった新たな事業展開により産地の再興に取り組んだ。

※やまじ王：愛媛県育成品種 平成21年品種登録

### 2. 活動内容

【平成30年度～令和元年度】

#### (1) 四国中央やまじ王生産振興協議会の設立

- ・生産者、JA、地元取扱業者、市、県（県農産園芸課、普及、試験研究）等による協議会を設立し、情報共有や振興方針等を決定した。また、年2回産地化検討会を開催し、生産と販売の両面からの課題解決を図った。
- ・JA広報誌等を通じ新規栽培者を募集し、講習会や個別指導で育成した。

#### (2) 省力生産技術等の確立

- ・省力化技術としてのマルチ栽培に適した新肥料の実証を行うとともに、マルチ栽培導入農家との意見交換等で技術確立に向けた活動を行った。また、贈答用中玉芋生産技術実証を開始しデータの収集に努めた。



写真1 マルチ栽培現地研修会

#### (3) ブランド化

- ・知名度向上のための商標登録や県「愛」あるブランド認定申請を提案及び支援した。H30年、JAうまが四国中央産やまじ王を“やまじ丸”で商標登録。令和元年度には「愛」あるブランド産品に認定された。



図1 やまじ丸イメージキャラクター

【令和2年度】

#### (1) 省力生産技術等の確立に向けた活動

- ・令和元年度の実証結果により、マルチ栽培に適した新肥料の有効性が確認された。品質の不安定さが課題として残ったため、施肥量について検討・実証した。

- ・引き続き贈答用中玉芋生産技術を実証し、適正な栽植密度を検討した。
  - ・栽培技術実証データの収集・解析により、マルチ栽培マニュアルを作成し、栽培講習会やセミナー、新規生産者の確保に活用した。
  - ・中玉芋生産に適した栽培技術について、生産部会を通じて生産農家に情報提供し、技術の統一を図った。
- (2) 販売及びPR活動を通じた知名度の向上
- ・学校給食栄養士と連携し、市内学校給食でのメニュー化と材料提供を実現した。また、県関係機関と連携し、新たな販路の拡大や知事試食会等マスコミを活用した情報発信活動を行った。

### 3. 具体的な成果

#### (1) やまじ丸産地化対策検討会

- ・年2回開催し、栽培実証内容、PR販売計画、実証結果や販売実績報告、残された課題や対策等についての検討や情報の共有ができた。
- ・JA広報誌等での募集や個別指導で3人の新規栽培者が確保できた。
- ・栽培面積は11haを維持し、販売額は7.2千万円となった。

#### (2) 省力生産技術等の確立

- ・マルチ栽培に適した施肥量を確定するための実証を行い、適正な施肥量を確認することができた（慣行の2割減）。また、マルチ栽培により労働時間が約30%低減（350hr/10a→240hr/10a）することを確認し、平成30年度からの実証結果をもとにした“マルチ栽培マニュアル”を作成し、栽培農家に配布し（やまのいも栽培農家数：138戸）指導することで、技術確立につながった。
- ・贈答用中玉芋生産技術の確立に向け栽植密度に関する実証を行った結果、栽植密度を慣行の1.5倍にすることで贈答用に適した400g/個前後の中玉芋が生産できることが確認された。生産販売は2.6トン（R2年度）。

#### (3) ブランド化の推進

- ・地元消費者等への認知度向上に向け、学校給食栄養士と連携し、学校給食で市内児童生徒にやまじ丸料理を年6回提供できた。また、児童生徒にアンケートを実施した結果、学校給食でメニュー化したことで“やまじ丸”の認知度が0から20%に向上した。
- ・県庁内3食堂でのメニュー化につながり、知事試食会では、JAうま役員ややまのいも専門部会長が“やまじ丸”の特徴やメニューを紹介。“やまじ丸”をすりおろしたやまかけそば等6品を提供し、その様子をマスコミを通じ発信した結果、全国各地から商品の問い合わせがあるなど認知度が向上した。
- ・従来の県外加工業者を主流とした販売に加え、新たに県内外小売業者やネット販売業者、県外卸業者など、新たに8件の取引が開始された。



写真2 学校給食でのPR



写真3 知事試食会の様子

#### 4. 農家等からの評価・コメント

- やまじ王生産振興協議会副会長 JAうま営農販売部長 大西 博文  
農業指導班のコーディネートにより、行政や農協以外に、やまのいも取扱業者、地域等が一体となって産地再興に向けた協議ができたことは非常に意義深い。また、従来の業務用加工業者向けの出荷が主流であったが、新たな販路の確保や一般消費者向け贈答用中玉芋生産等、新たな出口戦略が示されたことに感謝している。今後も産地の再興に向け協力いただきたい。
- やまじ王生産振興協議会会員 JAうま特産部会 部会長 宝利 義博  
加工業者との契約販売単価が低迷する中、面積も栽培者も急激に減っている。やまじ風の強い四国中央市では古くから水稻、さといも、やまのいもの輪作体系が確立しており、地域の重要な作物である。やまのいもの栽培が絶えないよう、生産部会としても生産振興協議会活動に協力していきたい。

#### 5. 普及指導員のコメント

東予地方局農業振興課地域農業育成室四国中央農業指導班

- 主幹 河野 章  
生産者と関係機関で構成する「やまじ王生産振興協議会」を課題や対策等の協議の場として、地域戦略品目であるやまのいもの産地振興に取り組んできた。事業終了後も引き続き、協議していく環境が構築されていることから、県育成品種“やまじ王”の四国中央市特産ブランド“やまじ丸”を活用し、やまのいも産地の再興に取り組んでいきたい。
- 担当係長 渡邊 康俊  
高齢化や単価の低迷による生産意欲の減退等で栽培面積減少の一途を辿っていた中で県単事業を創設し、生産面、販売面で支援することで面積減少の歯止めに繋がった。また、販売面（出口戦略）について、これまで普及の関わりは少なかったが、学校給食栄養士、飲食業者やネット販売業者と産地とのマッチングなど、コーディネーターとしての役割が十分果たせた。

#### 6. 現状・今後の展開等

- 「やまじ王産地強化事業」に基づき設立した、「やまじ王生産振興協議会」を「やまじ丸生産振興協議会」として再編し、令和3年度以降も継続して産地の再興に取り組む。
- 3年間の「やまじ王産地強化事業」の成果をもとに、マルチ栽培による省力化を図るとともに、新たな販路や贈答用中玉芋の生産販売等を通じた販売単価の上昇による生産意欲の高揚を促し、「地域の重要な特産野菜である“やまのいも”」の栽培面積や生産農家の維持拡大を進める。
- 引き続き、情報発信活動による“やまじ丸”の認知度向上と、一般消費者向けの中玉芋の生産販売を推進し“やまじ丸ファン”の拡大と定着を図る。